

マタイの福音書 聖書講解シリーズ

45) 十二使徒の派遣

マタイ 10:5-15

2020.8.9 HKJCF

1

概観

見習い期間を経た十二使徒は、いよいよ実習期間に入り、村々に派遣される前に、イエス様は「**宣教の説教**」を話された。

アウトライン

- | | |
|----------|-------|
| 1. 宣教の対象 | V5-6 |
| 2. 宣教の本質 | V7-8 |
| 3. 宣教の心得 | V9-15 |

2

1. 宣教の対象 V5-6

- 1) 主が遣わされる: ①信仰告白→②見習い→③実習; 出て行く意識を持つ; コンフォートゾーンの危険性; 受ける→与える。
- 2) ご計画の順序: 異邦人とサマリア人の町; 排除ではなく順序が違う; 楽な方から始める。
- 3) 失われた羊: 羊飼いがいない環境; 律法主義→恵み主義; 儀式や行い→告白と従順。
- 4) 自分の置かれた世界で: 地の塩、世の光 (マタイ 5:13-16); 働き手になる (マタイ 9:36-38)。

3

2. 宣教の本質 V7-8

- 1) 「天の御国が近づいた」: 王国と王に従う概念; 心を神様の愛の支配に明け渡す。
- 2) 福音を宣べ伝える: 一番大事な使命; 罪と不自由さと恐れ→解放と自由と平安。
- 3) 四つの御業: ①病人の癒し ②死人の復活 ③らい病人の聖め ④悪霊の追い出し=イエス様からの権威でしるしが行われる。
- 4) 「ただ受けて、ただで与える」: 恵み主義; 商売儲け×; 惜しみなく無代価で提供する。

4

3. 宣教の心得 V9-15

- 1) 神様に頼る V9-10: ①稼ぐな ②余分な物を持つな ③ホスピタリティを受けよ。謝儀と現代文化の違い (I テモテ 5:17-18)。
- 2) 適当な人と平和の家 V11-13: 福音に対してオープンな人; 平安がとどまるように; その家を宣教本拠地にする→人が何より大事。
- 3) ゆだねていく信仰 V14-15: 足のちりを払い落とす (絶縁の行為) = 無理し、強制しない宣教; 呪わずにゆだねていく; 応答が必要。

5

適用

- ① 神様に派遣されていることを意識しよう: 先に救われた者として、自分の生き方を通して周囲に良い影響を与え、証が用いられるように期待しよう。
- ② 自分の「世界」で御名が語られるように: 世界各国を視野に入れながら、自分の置かれた「世界」でイエス様の御名が語られることを祈っていこう。

6